

令和8年度 通常総会 第1回研修会のご報告

令和8年6月4日(木)射水市役所本庁舎にて、射水市居宅介護支援事業者連絡協議会の令和8年度通常総会及び第1回研修会を開催しました。

通常総会

総会では会長の挨拶の後、射水市福祉保健部 介護保険課 課長様よりご祝辞をいただき、新役員の選出、令和8年度事業計画、収支予算が決定しました。

総会后、毎年行っている「介護サービス紹介先の状況」「居宅介護支援事業所の現状」についての令和7年度のアンケート結果を報告しました。

毎年同じアンケートを行っていることで、状況の変化が把握できます。圏域ごとにサービス事業所がある、ない等の差があることもわかり、ケアマネジメントの現状と現場が抱える課題が可視化できました。

第1回 研修会

「身寄りのない方への支援と課題 ～シャドーワークをどうとらえるか」

講師 富山県介護支援専門員協会 副会長

南砺市 地域包括ケア課 南砺市地域包括支援センター センター長 竹内 嘉伸 氏



シャドーワークの定義、視点、社会的意味や心理的な意味、具体的なアプローチについて講義を頂き、身寄りのない高齢者をどう支える体制にして行くかについて学びました。

～皆さんの感想～

- ・代行している作業もシャドーワークになることを知り、本人のできる能力を奪っていることに気づけました。アセスメント時に、どうしてもできないことばかり目を向けがちなので、何が原因なのかを一緒に考え、サービスの提案をしていきたいと思えます。
- ・シャドーワークが増えている要因に日頃のケアマネとしての利用者本人やご家族に対しての関わり方にも問題があることがわかった。依存させない関わり方が大切であり、どうしたらできるようになるか、ご本人の「自立支援」の視点を持つことが大切であると感じた。
- ・シャドーワークの対応にはケアマネの考え方の変化やスキルも大きく影響すると感じました。
- ・竹内先生の話聞いて、ケアマネがどうとらえるかで、それぞれ対応が違ってくると学んだ。
年月が経つにつれケアマネの認知度が上がることは嬉しいが、なんでもケアマネに言えばよいという風潮が、行政や病院などの他、関係機関全体に広まってしまっている。ケアマネが魅力ある職になって人材不足にならないことを願っています。
- ・利用者の生活を支えるためには必要な支援もある中で、過度な依存、当たり前にならないように本人の能力や状況をアセスメントし、必要性を見極めていくことが必要と理解しました。
- ・シャドーワークにおいて、どうしてもしないといけない思いがあり、してしまうことあるが、中にはやり方でシャドーワークにならずに行えることもあるとわかった。それには制度に精通することも必須と思いました。



シャドーワークは、ケアマネ業務の範囲外のことを善意で行っていることだと思います。「ケアマネがして当たり前」になってしまうと、担当ケアマネが交代した時など、「前のケアマネはしてくれたのに…」とトラブルになることもあります。ご利用者、ご家族ができることを見極め、できることはやってもらえるように働きかけていくことが大切であり、ケアマネができないことを説明できる力をつけ、利用できる制度等を学んでいきましょう。